



なぞって練習

ではその女房をしい
るといふ女たちなの
であらうと源氏は解
釈して、いい気にな
って、物馴れた戯れ
をし、かけたものだ
と思ひ、下の品であ
らうが、自分を光源
氏と見て詠んだ歌を
よこされたのに対
して、何か言わねば
ならぬという気が
した。といふのは女
性にはほだされやす
い性格だからである。
懐紙に、別入のよう
な字体で書いた。

■ 参考

※物馴れ【ものなれ】

※詠んだ【よんだ】

※懐紙【ぶとしろがみ】

(青空文庫のフリガナより)